

関西経済 復権への鼓動

翔る未来へ

1614年の大坂冬の陣。徳川家康の天下取りの野望は翌年の夏の陣でついに結実し、豊田家の滅亡とともに、日本の政治経済の中心は東に遷った。それから400年。かつて隆盛を極めた「天下の台所」は、繊維、造船、鉄鋼などの近代産業とともに再び発展。さらに戦後は電機、化学、医薬といった成長産業が集積し、首都・東京に次ぐ一大経済圏を形成するに至る。ここ数年は停滞が続いているが、素材や医療、観光を中心にたくい希な地域ポテンシャルを秘める関西。グローバル経済の進展のもとで、復権に向けた西の鼓動が鳴り響く。



3月7日にグランドオープンした日本一高いビル「あべのハルカス」(左)、神戸空港(右上)、大阪城3Dマッピングスーパーイルミネーションの模様(右下)

成長可能性と 多様性に富む産業力

経済停滞脱却

昨年12月の日銀短観によると、近畿地区の全産業ベースの業況判断(DI)は、実に6年ぶりのプラスに転じた。円安傾向を受けて大手製造業のポイントが改善したほか、中小製造業も前回調査に比べポイントを改善している。だが全業ベースに比べると動きは鈍い。アベノミクスを軸にした景気回復機運を尻目に関西だけが取り残されているように映るが、実態はどうか。

まず低迷の主因とされるのが、関西に本拠を構える大手家電メーカーの業績不振だ。テレビ

中小企業の底力

一方の中小企業。関西地区は、景気回復のけん引役である自動車関連比率が全国的に低い。このことが関西経済回復の遅れを招いているという指摘もある。

一方で電機、機械、医療機器など、多様な産業分野で独自の製品サービスを展開しているのが、関西の中堅・中小企業の特徴だ。全国に

成長分野の技術集積

比べ、下請け加工形態の企業が少なく、海外を含め自ら市場を開拓してきた企業が多い。早くから海外に販路を求めたり、自社技術を転用し、新分野に積極進出する企業が相次いでいる。リマン・ショック以降の経済低迷で足腰を鍛えられた中小企業の底力が、関西経済の隠れたけん引役となるだろう。

地域力に着目した イノベーション戦略始動

学術と産業力の結集

えは太陽光パネルや蓄電池、半導体材料、化学材料、医薬品など。成長分野で国内有数の技術を持つ世界的なリーディング企業が数多く立地していることが、関西の産業競争力の高さを示している。

優秀な研究者、技術者を数多く擁している。この学術的な集積と高い産業力を結びつけ、イノベーションを呼び込むというのが関西の成長戦略の柱でもある。走り始めたのが関西イノベーション国際戦略総合特区。先端医療技術など関西の強みであるライフサイエンス分野や、新エネルギー分野に集中投資し、研究開発から事業化、海外展開まで一貫した取り組みを実施し、新しい製品・サービスを生み出す試みだ。

国際競争に打ち勝つ

具体的なターゲットは、医薬品、医療機器、再生医療などの先端医療技術、先端医療、バッテリー、スマートコミュニティーの6つ。関西からの医薬品、医療機器の輸出を飛躍的に増加させるほか、リチウムイオン電池や燃料電池の生産額を大幅に増やす計画だ。国際競争力を一気に引き上げて、国内外における関西の存在感を高める狙いだ。

人を呼び込む 仕掛けも着々

圧倒的な観光資源

成長戦略のもう一つの柱が、人と企業を関西に呼び込む戦略だ。国も観光戦略をアベノミクスの重要なツールに位置づけており、訪日観光客の誘致で激しい国内都市間競争が予想されるが、関西は京都・奈良を筆頭に国際的な観光資源を豊富に持つほか、大阪、京都、神戸に代表される食や文化でも、観光資源にできる有力なコンテンツを持っている。KANSAIを広域的な観光地として発信する取り組みも始まった。

LCCのインパクト

さらに関西にインパクトを与えようなのが、関西国際空港を起点にした格安航空会社(LCC)の進出だ。特にアジア各国との就航路線の拡充は、そのままアジアの成長を呼び込む有力なツールになる。すでに関西はLCC専用の第2ターミナルをオープンさせるなど、LCCの誘致を積極化しており、関西と各都市間のさらなるアクセス改善が実現すれば、アジア・ゲートウェイとして不動の地位を確立することになるだろう。

にぎわう大阪

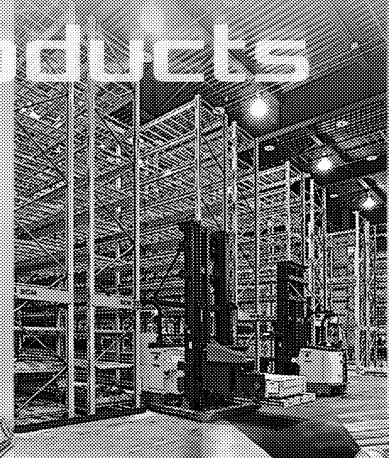
昨年4月、梅田駅北口にグランドオープンした巨大施設「グランフロント大阪」。年間来場者目標を10カ月でクリアする盛況ぶりをみせている。そして3月に阿倍野区に全面開業したのが、日本一の高さを誇る超高層複合ビルの「あべのハルカス」。高さ300mからの眺望や入居する近鉄百貨店、美術館などの施設と合わせ、人を呼び込む。東京のスカイツリーと同様の新名所になれば、大阪は一段とにぎわいをみせることになるだろう。

物流の未来に、 新たな価値を創造する。

「ニチユ三菱フォークリフト株式会社」は、お客様と共に創る物流技術を通じて、世界に選ばれる品質とあくなき技術革新への挑戦で、グローバル社会の未来づくりに貢献します。

We will contribute to the Creation of a prosperous society through logistics technologies.

Products

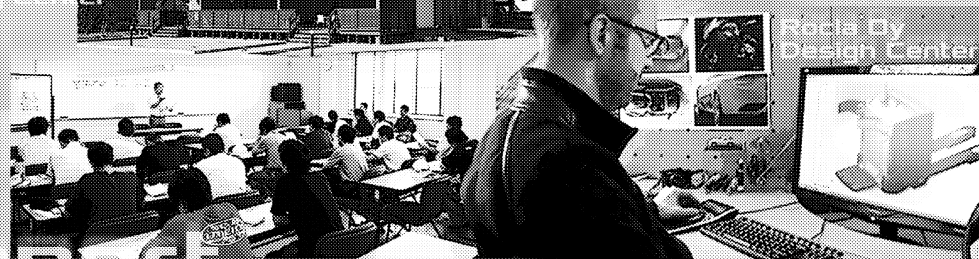


Electric Forklift Trucks



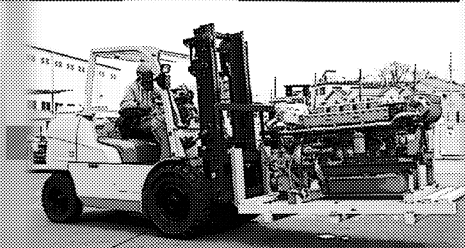
Material Handling and Logistics System

On-site Training Center



R&D Design Center

Support



ニチユ三菱フォークリフト株式会社

本社 〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1 TEL 075-951-7171
事業所 京都工場、相模原事業本部、滋賀工場
販売サービス/全国260拠点にサービスデポを設置
海外拠点/アメリカ、オランダ、フィンランド、中国、タイ、シンガポール、インドなど
<http://www.nmf.co.jp/>